

高麗川地区ウォーキングの楽しみポイント

①生涯学習センター

日高市生涯学習センターは、「日高市立図書館」「日高市立保健相談センター」「日高市立教育センター」の施設の総称です。

2017年4月1日から拡大される図書館サービスの主な内容は、これまで休館日だった月曜・祝日を開館し、月末・年末年始・特別整理期間を除き開館。これにより従来と比べ開館日が年間約50日増となる。紫外線を使って殺菌消毒し、風を当て本に挟まったゴミやほこり、においを取り除く書籍消毒機を導入する。（文化新聞より抜粋）



（日高市ホームページより） 図書館ホームページより

②高林謙三翁の銅像

高林謙三は天保3年（1832年）高麗郡平沢村（現北平沢）に生まれ国学と医学、さらに西洋医学を学び、文久2年（1862年）に川越藩主・松平大和守の侍医に登用されたが、開港による輸入増に対し地場産業の振興に力を注ぐと、医業で蓄えた私財を投じ、当時、日本からの主な輸出品となっていた緑茶の生産性を高めるため、従来の手揉み製茶法に代わる3種の製茶機械を発明、民間で最初の特許を取得した。最後に完成させた茶葉粗揉機は従来のものに比べて4倍の製茶能力を持ち、味や香りも損なわないという画期的なもので、基本設計は100年以上が過ぎた現在も活用されている。（1901年）に70歳で死去した。

（文化新聞より抜粋）



生涯学習センター入口

最新発見された写真

文化新聞より

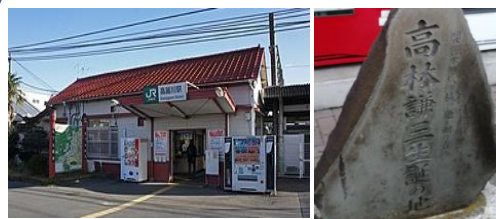
③高麗川駅

国鉄は昭和8年に八高線を開通させ、同時に高麗川駅が開業しました。昭和15年には川越線が開通して、武蔵高萩駅が開業しました。交通機関の充実近代化を進める大きな原動力と期待されました。

（日高市ホームページより）

高林謙三の石碑は高麗川駅から矢印方向に約50mほどのところにある。現在販売機などの横にあるため見落としやすい。

（見学時は自転車や歩行者往来が激しいので注意が必要です）



2021年3月9日撮影畑中

④モニュメント「日韓交流の塔」

日高市と朝鮮半島との交流の象徴としてJR高麗川駅前に建設されました。

ユーモアのある顔の二対のチャンスン(将軍標)をあしらっています。JR高麗川駅の駅前広場にあるモニュメント「日韓交流の塔」に、日高市商工会青年部の皆さんによるイルミネーションです。

日高市ホームページより



○内将軍標を示す

令和29年12月5日

日高市観光協会より

日高市ホームページより